

「その一言で」

私の勤務している病院の手術室は8部屋あります。手術前の患者さんが、術前室で泣いている時があります。その姿に、ベテラン看護師さんや看護助手さんが、患者さんに寄り添い、不安を取り除いてくれます。手術室看護のメンバーの心強いサポートにより、患者さんが安心して手術を受けられます。退院する前に患者さんから「手術前に、看護の方に声をかけてもらい、安心して手術を受けることができました。近くにいてくれるだけで心強くなれました。」と、看護スタッフが高く評価され、治療にも納得されて退院されました。サッカーの世界にも同じような光景があります。

先日、U14大会がありました。FWの選手です。シュート本数があるものの、味方選手とタイミングが合わず外してしまう事です。そんな時、GKの加藤選手やDFの南部選手や坂本選手から「落ち着け!」という声から、後半戦でFW選手が気持ちを取り戻し、勝利に繋がりました。日頃の仲間からの声というのは、大きな安心感を与えてくれたことと思います。

また、怪我をしていた選手が、一ヶ月ほどフィールドを空けることがありました。治療を終え、ようやくフィールドに戻れた時、仲間同士安堵感が生まれていました。いつも一緒に選手がいなくなった時は、選手や指導者にとっても大きな変化があります。「やっと、戻ってきてくれた。一緒にフィールドでいてくれることの安心感が大きい」という、選手の声からは、仲間の存在がどれだけの影響を与えるかが見受けられました。

私たち指導者も同じときがあります。練習内容や生活指導、進路指導など、選手一人ひとりに見合った指導が必要になります。私は監督として、まだまだ未熟であります。そんな時、優しく見守ってくれる橋本代表や的確なアドバイスをいただける塩月コーチに支えられています。

選手には、いろいろな世界があります。「学校」「家庭」「サッカー」「他の習い事」等、様々な世界で支えてくれる人がいると思います。時に「この人、気難しいな」と感じる時や、意見のぶつかり合いもあるものがあります。「自分の意と異なる人や物事があって、共に成長していく」事に繋がっていることと思います。そのような時は、その世界の人だけではなく、様々な世界で自分に近い人に相談してみることも選択肢の一つとして、もってもらいたいと願っています。

「言葉の力」は、どの世界でも必要です。サッカーでは、「サッカーの言語力」を必要とされます。味方選手や監督、指導者への声のかけ方、接し方次第で、自分も相手も存在価値観が変わってくることと思われます。中学生選手は、そろそろ大人の架け橋を渡ろうとし、自分の意見を持ち出していきます。「相手に納得してもらえる説明」と「相手の気持ちになって発言すること」が、重要なことと思います。

「心強く、たくましい選手の育成」というテーマを掲げ、これからも「フィグラーレ狭山FC」は、選手と保護者の方、指導者みんなの力で支えあっていきたいと思っています。